

令和5年度「学力向上を図るための全体計画」



本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	教育課程編成上の工夫	家庭や地域社会との連携	小中一貫教育
<ul style="list-style-type: none"> ・「令和5年度改訂版大北小スタンダード」に基づき、学校全体で学習規律の徹底をし、授業を充実させる。 ・ICT機器を効果的に活用した授業展開を工夫していく。 ・将来必要となる能力を身に付けさせるため低学年からベースとなる体験を授業に取り入れていく。 ・主体的・対話的で深い学びを目指す授業改善に向けて、児童が学習に見通しをもって取り組み、学んだことを生かせるような手だてを行う。 ・キャリア教育の基礎的汎用的能力を意識した継続的な指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化を図り、児童自身の学習評価力を高めるとともに個々に適切な支援を行う。 ・児童のノートから個々の学習状況を把握するとともに、励ましの言葉を記すなど意欲を高める支援を行い、学習意欲の向上を図る。 ・各種データを基に、児童の変容を客観的に捉え、指導に生かす。 ・キャリア教育の3つの視点のねらいに対して、児童の変容について評価を行い、指導の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを明確にした学習指導を推進し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ・キャリア教育のねらいを明確にした授業実践を積み重ね、その成果を検証し、授業改善に生かす。 ・教師同士が授業を公開し合い、自主的に授業改善に取り組む。 ・校内研究会での講師の指導を生かして、指導力の向上を図る。 ・他校の研究会や各種研究会に参加し、指導法の改善に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週学年会を行い教材研究の時間を確保する。 ・始業前15分間に朝学習を設定し、国語、算数の基礎・基本の定着を図る。 ・児童の学習評価に関わるアンケート、地域・保護者対象の外部評価を実施し、評価委員会で諮り教育活動の改善を行う。 ・各種データに基づき授業改善を図るため、PDCAサイクルを確立する。 ・児童の学校生活に関わるアンケートの結果を基に、指導の課題を明らかにし、授業改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開やキャリア教育を意識した道徳授業地区公開講座を実施し、保護者・地域とともに、児童の健全育成を図る。 ・学校行事や家庭学習促進旬間中の個人面談等を活用し、信頼関係を構築するとともに連携を深める。 ・「スキル生活」などを通して、学校と家庭が共通して取り組み、生活習慣の改善や体力向上を図る。 ・「令和5年度改訂版大北小学習スタンダード」を生かしながら、家庭と連携し、ニューノーマルな学びの確立に向け、タブレット端末を活用したICT教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育を進め、小中9年間を見通した学習・生活スタンダード「目指す15歳の姿」を共有する。 ・課題改善カリキュラムに基づき中学までの指導内容を見通して教材研究を行い、当該学年における基礎的・基本的な学力を確実に身に付けさせる。 ・家庭学習を習慣化させ、小中が連携して家庭学習の定着を図る。 ・それぞれの校種におけるキャリア教育について共通理解を図り、連携を図る。

